

若者の色彩意識と着装行動の関連

—— 男子・女子大学生の場合 ——

鮎 田 崎 子・寶 利 亜紀子

(被服学研究室)

(平成12年10月19日受理)

The Relationship between Color Awareness and How to Clothe Oneself

—— In the Case of Male and Female University Students ——

Sakiko FUNADA and Akiko HOHRI

I 緒 論

被服は生活に不可欠なものである。被服を着ることにより、最も身近な環境を形成し、身体保護はもちろんのこと、自分自身を積極的に表現している者は多い。その被服による表現行動の効果を高めるものの一つに「色」の活用がある。多種多様な衣料が出回っている中で、被服を入手・選択・着用する際に何を重要視するかは人それぞれであるが、その際に、色を切り離すことは出来ない。

人が色を感じるのは、光が眼に入ってくることによる。光刺激の各波長に対応して、網膜にある色や明暗を感じる錐体細胞が反応し、光が眼に入って、約400~700nmの波長帯域ごとに色を感じるようになる¹⁾。正常な色覚の人で約750万色の色彩が識別可能²⁾といわれているが、色に対し、どのような意識活動を呈するかは、民族性、社会習慣、受けてきた教育、流行現象、その時の個人の気分や体調などにより差異がある。

色彩に意味を持たせて意図的に利用することは、日本においても古くから行われてきた。聖徳太子が制定した冠位十二階(603年)は、冠の色によってその位階を識別するもので、初めて法的に色に意味をもたせたこととして注目すべきものである³⁾。位階に応じて定められた色は「当色」と言われ、自分の位階以上の色を用いると罰せられていた。

平安時代は当色の制度にかわって禁色の制度が定められた。「禁色」は、直接位階を問題にする当色とは違い、身分不相応の奢侈を禁じるという経済的な面を重視したもので、色の選択の幅はかなり広くなった。当時、紫や紅は憧れの色であり、この2色を禁じると、禁制を犯す者が増えて取り締まりが困難になるため、それらのごく淡い色は「聴色」とし着用を許され

た。人々は制限された色遣いの中で、自分の理想の色を身につけようと工夫していた⁴⁾。

平安時代、特にその後半は、衣服の色遣いが衣服の装飾方法の上で極めて大きな位置を占める。当時、「重色目^{かさねいろめ}」という着用の手法があり、色目を重ねることで季節を表していた⁵⁾。自然の中にある美しい色目を自分の服装に取り入れて季節感を出すことにより、微かな色の違いで美的感情を表現していた。色名には日本の動・植物や自然などの名前が使われ、茜色、藍色、萌黄色、山吹色、鼠色などがある。重色目の例には、萩重（表紫・裏二藍^{ふたあい}）、百合（表赤・裏朽葉^{くちは}）、雪の下（表白・裏紅梅^{まつがさね}）、松重（表青・裏紫⁶⁾）などがある。このように、日本人の色彩感覚は四季折々の自然の中で育まれてきた。

少し早めに次の季節の色を着ることは、平安時代においては先取りのファッションであった。今もおしゃれな人は次の季節の色遣いを先取りした衣服を着ているが、自然の中の季節色というよりも次の季節の流行色を先取りすることが、よりおしゃれであるという意識が働いている。現代の衣服も、季節感を意識した色が入り入れられてはいるが、デザインや素材などと共にシーズンレスの傾向が見られる。

近年、身の回りにはいろいろな色が溢れているが、ライフスタイルの変化、その時々での社会の動向や時代感覚の影響を受けて、人々から支持される色は変わる。これが一般に「流行色」と呼ばれているものである⁷⁾。

流行色には、おしゃれを楽しむ人達の間で自然に生まれて広がっていくものもあるが、前もって人々に好感を持たれるであろう色を予測し、意図的につくられているものもある。それは各国の機関によって発表されるが、インターカラー（国際流行色委員会、1963年発足）はそれらをグローバルに組織化し、国際的な流行色を決定している。日本では、日本流行色協会（JAFCA）が、産業界に対して流行色情報を発信し続けている。

JAFCA が創立された1953年は、51年のナイロン製造開始に端を発したナイロンブラウスのブーム、53年のクリスチャン・ディオール一行来日によるディオール旋風など、日本の繊維・ファッション業界が大きく飛躍しようとしていた年である。戦後、未だ日本に溢れる粗悪な色を改善しようという「グッドテースト運動」が高まり、その一方で、先進国である欧米諸国の先例に学び、それを輸出製品の色に反映していこうとする「輸出振興」の動きが、JAFCA 創立の直接の契機となっている。そして、もう1つ重要な設立目的となったのは、産業界に向けて「トレンドカラー」を設定することによって、色の面から無駄な生産を省こうとすることであった⁸⁾。

トレンドカラーは年間に2回、実シーズンの約一年半前に発表されているが、その選定の重要な基準となるのは、インターカラーで選定される世界的なトレンドカラーの傾向、現在の生活者の意識やライフスタイル、色彩調査の結果である。流行色はライフスタイルとの調和、嗜好などを踏まえ、生活者のより豊かな色彩生活の実現のために決定され、発表されているのである⁹⁾。

色彩は服飾業界のみならず、インテリア業界、化粧品、広告、商品パッケージ、カラーセラピーなどの分野で注目され、色に関する知識や感覚が幅広く求められている。家電や家具、食器、文具など、今までには無かったような遊び感覚溢れる色遣いの商品が登場し、色彩環境が多彩となるなか、これまでの常識にとらわれない自由な発想のもとに、「色を楽しむ」人が増えているように思われる。

人々は、衣生活の領域に自分なりのこだわりを持っており、自分のライフスタイルや好みに

合った衣服や小物を、それぞれの感性でコーディネートして楽しんでいる。大学生と高齢者を対象とした、被服の着装意識と生活意識の関連研究¹⁰⁾¹¹⁾から、着装意識と生活意識間に関連があり、大学生も、高齢者も、「服を着ることは楽しい」と強く意識しており、着装の楽しさには、「服色への関心」が他人意識、自分らしい服装、おしゃれを楽しむ意識とともに強く関与していることが明らかとなっている。そこで、現代の若者は着装における色彩選択や色遣いについて、実際にはどの程度の関心やこだわりがあり、意識しているのか、衣生活における色彩意識と着装・生活行動にどのような関わりがあるのかを数量化により客観的に把握することを意図した。また、1990年調査の状況と比較し、色彩意識の変化を探ることとした。

II 研究方法

調査対象者は、愛媛県松山市居住の大学生（男子225名、女子225名、計450名）である。1999年7月上旬から10月下旬にかけて、質問紙法により調査した。

調査内容は、衣服購入時の重視項目（上衣・下衣別）、衣服着用時の色選択における重視内容（上衣・下衣別）、服装などに関する色彩意識と着装意識、生活意識である。

色彩意識に関しては、こだわり、興味・関心、嗜好、気分、流行意識、社会性、実用性、身体欠点カバー性、色遣い、自己表現、他人意識、満足度など25項目、着装意識に関しては、自己表現、多様性、機能性、実用性、社会性、流行意識、積極性、身体欠点カバー性、他人意識、情報の入手、購入、製作など23項目、生活意識に関しては、活動性、積極性、社会性、満足度など20項目とした。

色彩意識、着装意識、生活意識に関する項目については「そう思う」から「そう思わない」までの4段階で回答を得た。

結果は、単純集計、クロス集計、因子分析、数量化Ⅲ類、クラスター分析を行い考察し、有意性を明確にするため検定を行った。

III 結果及び考察

1. 回答者の属性

回答者の属性は表1のとおりである。

所属学部は教育学部、工学部が多

表1 回答者の属性 人数 (%)

| 区 分 | | 合 計 | 男 子 | 女 子 |
|-------------|---------------|------------|------------|------------|
| | | 450(100.0) | 225(100.0) | 225(100.0) |
| 学 部 | 教 育 学 部 | 289(64.2) | 86(38.2) | 203(90.2) |
| | 工 学 学 部 | 96(21.3) | 90(40.0) | 6(2.7) |
| | 法 文 学 部 | 42(9.3) | 29(12.9) | 13(5.8) |
| | 農 学 学 部 | 14(3.1) | 13(5.8) | 1(0.4) |
| | 理・医学部 | 9(2.0) | 7(3.1) | 2(0.9) |
| 年 齢 | 18 歳 | 48(10.7) | 20(8.9) | 28(12.4) |
| | 19 歳 | 164(36.4) | 65(28.9) | 99(44.0) |
| | 20 歳 | 100(22.2) | 44(19.6) | 56(24.9) |
| | 21 歳 | 79(17.6) | 50(22.2) | 29(12.9) |
| | 22 歳 | 46(10.2) | 33(14.7) | 13(5.8) |
| | 23 歳 以 上 | 13(2.9) | 13(5.8) | 0(0.0) |
| 出 身 地 | 愛 媛 県 | 265(58.9) | 111(49.3) | 154(68.4) |
| | 四 国 県 内 | 51(11.3) | 32(14.2) | 19(8.4) |
| | 中 国 地 方 | 88(19.6) | 48(21.3) | 40(17.8) |
| | 九 州 地 方 | 15(3.3) | 12(5.3) | 3(1.3) |
| | 関 西 地 方 | 17(3.8) | 12(5.3) | 5(2.2) |
| そ の 他 | 14(3.1) | 10(4.4) | 4(1.8) | |
| 居 住 形 態 | 自 宅 | 166(36.9) | 57(25.3) | 109(48.4) |
| | 寮 | 13(2.9) | 4(1.8) | 9(4.0) |
| | ア パ ー ト | 92(20.4) | 64(28.4) | 28(12.4) |
| | マ ン シ ョ ン | 167(37.1) | 91(40.4) | 76(33.8) |
| | 下 宿 | 12(2.7) | 9(4.0) | 3(1.3) |
| 所 属 サ ー ク ル | 文 化 系 | 104(23.1) | 46(20.4) | 58(25.8) |
| | 体 育 系 | 200(44.4) | 118(52.4) | 82(36.4) |
| | 音 楽 美 術 芸 能 系 | 20(4.4) | 3(1.3) | 17(7.6) |
| | そ の 他 | 32(7.1) | 13(5.8) | 19(8.4) |
| | な し | 94(20.9) | 45(20.0) | 49(21.8) |

く、年齢は18歳から23歳の間で、19・20歳が半数以上を占める。出身地は愛媛県内（58.9%）、中国地方（19.6%）が多い。居住形態は自宅が約37%で、マンション・アパートが57.5%、寮・下宿などを含め、一人暮らしが約63%となる。所属サークルは体育系44.4%、文化系23.1%、音楽美術芸能系4.4%、その他7.1%であり、どのサークルにも所属していない者は20.9%である。

2. 衣服購入時の重視項目

衣服を購入する時に重視するものを上衣・下衣別に3項目の選択技法で問うた結果は図1となる。

1) 上衣 全体的には、「値段」「デザイン」「サイズ・寸法」「模様・柄」「色彩」の順に重視して衣服を選んでいる。「色彩」及び「模様・柄」を重視する者は各々約29%とほぼ同率であり、衣服購入時の「色彩」に対する重視度は4, 5番目にある。

男女間の差が大きい項目のうち、男子の方が高いのは「サイズ・寸法」「着心地」であり、女子の方が高いのは「手持ちの服との組み合わせ」「デザイン」である。男子は快適性や機能性、女子は外見的な面を重視した選び方をしている。

2) 下衣 全体的には「サイズ・寸法」「値段」「デザイン」「手持ちの服との組み合わせ」「着心地」の順で重視しており、「サイズ・寸法」「手持ちの服との組み合わせ」「着心地」の項目の重視度が上衣よりも高い。

男女間において差が大きい項目のうち、男子の方が高いのは「値段」「着心地」であり、「デザイン」「サイズ・寸法」「手持ちの服との組み合わせ」は女子の方が高い。男女ともに、実用性、機能性をより重視して下衣を選んでいる。

上衣に比べて「サイズ・寸法」の重視度が高く、自分の体との適合性を強く意識している。その傾向は女子においてより高い。下衣の色の重視度は上衣に比べて低い。

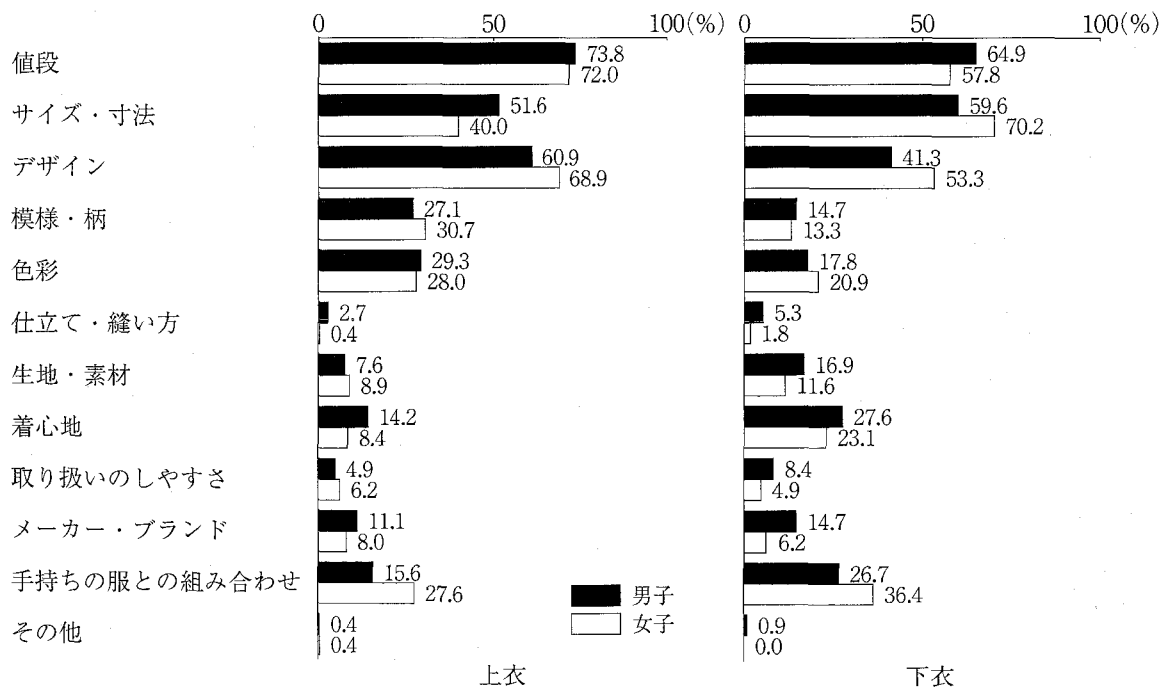


図1 衣服購入時の重視項目（上衣・下衣別）

3. 衣服着用時の色選択における重視内容

着用する衣服の色を決める時に重視しているものを上衣・下衣別に3項目選択技法で問うた結果は図2となる。

1) 上衣は「好きな色」「似合う色」「着る下衣との関係」「自分らしさが表現できる色」「その日の気分」を重視して選んでおり、「欠点をカバーしてくれる色」「汚れが目立たない色」「流行色」「個性的な色」を選ぶ意識は低い。

男女間において、男子の方が高いのは好きな色、個性的な色を選ぶこと、こだわらないことであり、女子の方が高いのは似合う色、着る下衣との関係で決めることである。男女ともに色による欠点カバー性は低い。女子は似合う色に対する意識が高く、組み合わせに気を配っていることから、外見を気にした少し厳しい色選びをしているといえる。

2) 下衣は「着る上衣との関係」「好きな色」「似合う色」「ポピュラーで無難な色」「その日の気分」が重視され、「流行色」「個性的な色」「季節に合った色」「自分らしさが表現できる色」を取り入れることに対する意識は低い。上衣に比べて組み合わせや着回しを考慮し、実用性や機能性を重視した慎重な色選びをしている。

男女間の差が大きい内容のうち、男子の方が高いのは好きな色を選び、こだわらないことであり、女子の方が高いのは欠点をカバーしてくれる色、着る上衣との関係、ポピュラーで無難な色で選ぶことである。「欠点をカバーしてくれる色」を選ぶのは男子2.7%、女子26.7%と差があり、女子の方が身体意識と色彩関係の関心が強く、色彩を効果的に利用することを考慮している。

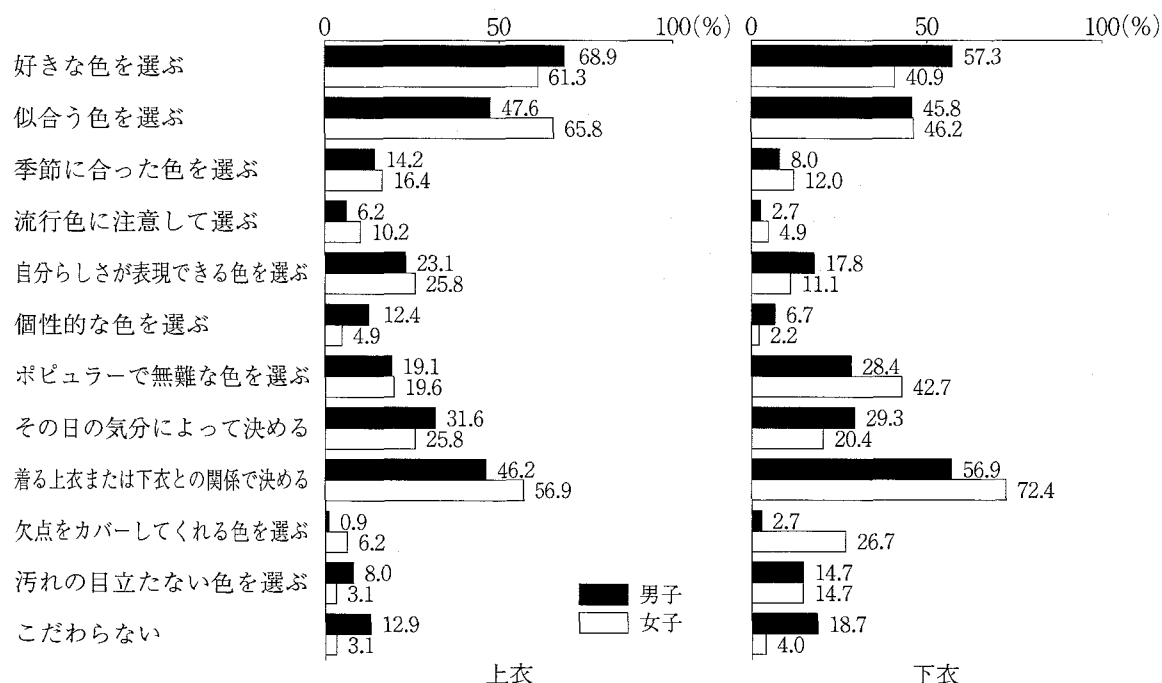
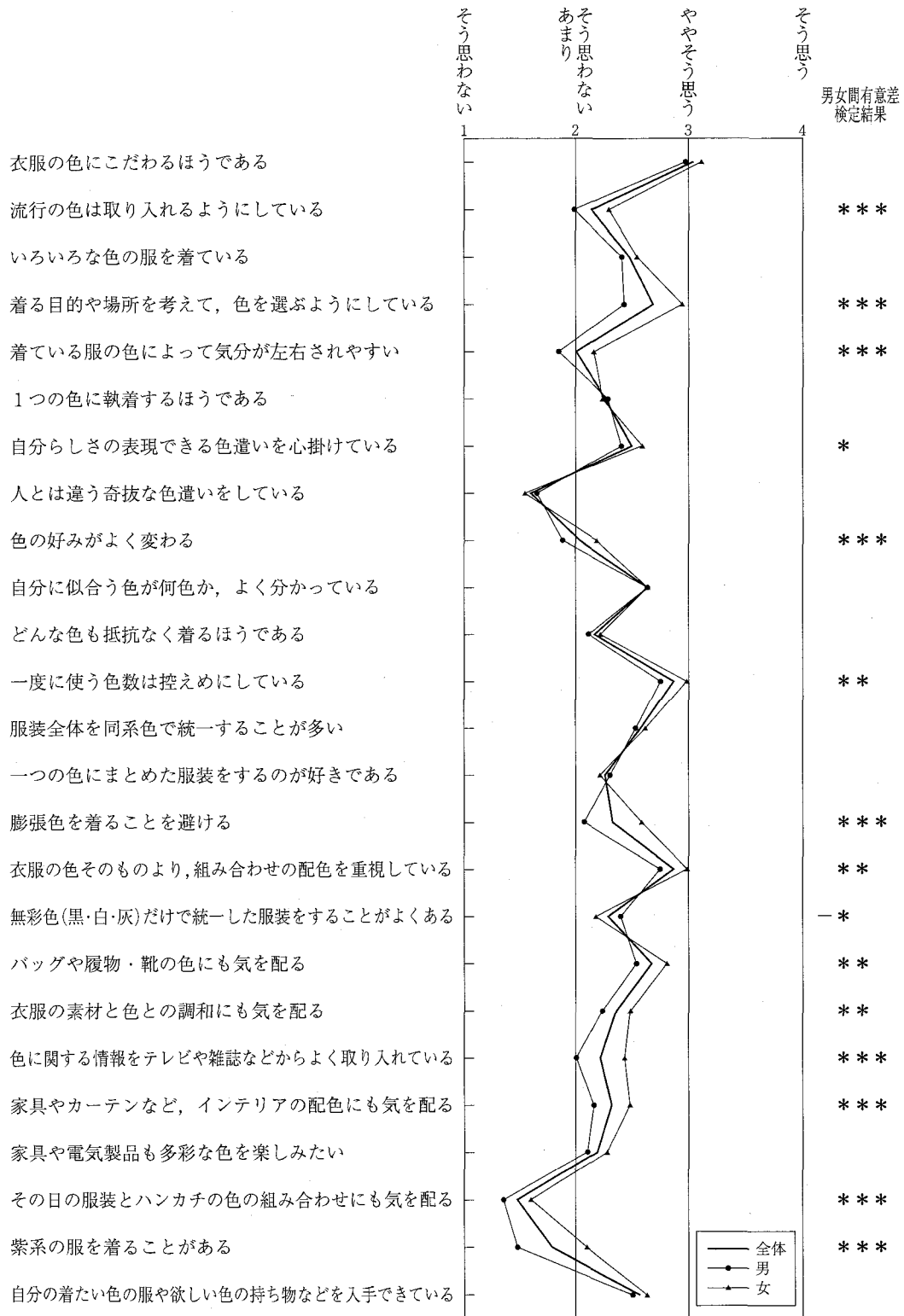


図2 衣服着用時の色選択における重視内容 (上衣・下衣別)

4. 色彩意識のプロフィール

服装等の色に関する25項目の評定に対し、4～1の評点を与えて資料とし、平均値及び各項目の評定平均値と標準偏差から男女間の有意差を検定した結果を示したのが図3である。



*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05 -は男子優位を示す

図3 色彩意識のプロフィール (全体・男・女)

全体的に色彩意識が高いのは、「衣服の色にこだわる」「一度に使う色数は控えめ」「衣服の色そのものより、組み合わせの配色を重視」「着る目的や場所を考えて、色を選ぶ」「バッグや履物・靴の色にも気を配る」であり、意識が低いのは、「その日の服装とハンカチの色の組み合わせにも気を配る」「人とは違う奇抜な色遣いをしている」「紫系の色の服を着ることがある」「着ている服の色によって気分が左右されやすい」「色の好みがよく変わる」である。このことから、若者は衣服の色にこだわりをもち、衣服だけでなくバッグや靴・履物などを含めた全身のコーディネートに気を配っており、社会性を考慮したり、組み合わせの配色に気を配るなど調和を大切にしている。また、一度に使う色数を控えめにし、奇抜な色遣いを避け、無難な色の遣い方をしている。ハンカチの色のような見えないところにまで気を配ってはいない。

男女間に有意差が認められた15項目のうち、男子の方が意識の高いのは「無彩色（黒・白・灰）だけで統一した服装をすることがよくある」のみで、他の14項目は女子の意識が高い。女子の意識が優位な項目を順にみると「紫系の色の服を着ることがある」「着る目的や場所を考えて、色を選ぶ」「膨張色を着ることを避ける」「色に関する情報をテレビや雑誌などからよく取り入れている」「流行の色は取り入れるようにしている」「着ている服の色によって気分が左右されやすい」「色の好みがよく変わる」「その日の服装とハンカチの色の組み合わせにも気を配る」「家具やカーテンなど、インテリアの配色にも気を配る」「バッグや履物・靴の色にも気を配る」「衣服の色そのものより、組み合わせの配色を重視している」「衣服の素材と色の組み合わせにも気を配る」「一度に使う色数は控えめにしている」「自分らしさの表現できる色遣いを心掛けている」である。女子の色彩意識は男子よりも高く、社会性の考慮、膨張色や流行色への関心、インテリアの配色、バッグや履物・靴の色、素材との組み合わせ、自分らしさの表現など色遣いの配慮が多方面にわたっており、色彩による身体や精神、環境への影響に敏感である。男子は女子に比べて多彩性が低い。

色彩意識に関する22項目（紫色・入手状況・ハンカチの色に関する項目を除く）の構成を明らかにするため因子分析を行った。固有値1.0以上で解釈可能なものを基準とし、男女各5因子を抽出した（表2-1, 2-2）。

男子は第1因子「色の活用性とこだわり」、第2因子「統一性・限定性」、第3因子「多彩性・社会適応性」、第4因子「色彩感度・被影響性」、第5因子「抵抗性」、女子は第1因子「配慮性」、第2因子「積極性」、第3因子「統一性」、第4因子「色の活用性とこだわり」、第5因子「自己表現」と解釈した。

男子は自分らしさの考慮、色にこだわる範囲の広さ、まとまりやシンプル性に対する意識、社会性を考慮しつつ、多彩な色を取り入れる意識、色と心理の関係や影響性、身に付ける色の許容範囲の狭さが示され、女子は色遣いで配慮する項目の多さ、躊躇なく様々な色を楽しもうとする意識、まとまりやシンプル性に対する意識、色にこだわる範囲の広さ、人とは違う自分らしさや個性を強調したいという意識が表れている。

5. 色彩に関する意識の変化—1990年調査時との比較

衣服購入時の重視項目、衣服（上衣）着用時の色選択における重視内容、色彩意識について、1990年調査¹²⁾と今回の1999年調査を比較して色彩意識の変化をみる（表3, 4, 5）。

1) 衣服購入時の重視項目

衣服購入時に重視することが1990年時より、全体的に高くなったのは「サイズ・寸法」「着

表2-1 男子の色彩意識の因子分析結果

| 項 目 | 第1因子 | 第2因子 | 第3因子 | 第4因子 | 第5因子 |
|-------------------------------|------------|------------|--------------|--------------|--------|
| バッグや履き物・靴の色にも気を配る | 0.694 | 0.032 | -0.332 | 0.007 | 0.047 |
| 自分らしさの表現できる色遣いを心掛けている | 0.690 | 0.127 | -0.029 | 0.218 | -0.092 |
| 衣服の色にこだわるほうである | 0.662 | 0.047 | 0.045 | 0.208 | 0.158 |
| 衣服の素材と色との調和に気を配る | 0.655 | 0.027 | -0.267 | 0.031 | -0.014 |
| 自分に似合う色が何色か、よく分かっている | 0.651 | 0.380 | -0.050 | -0.136 | 0.097 |
| 家具やカーテンなど、インテリアの配色にも気を配る | 0.567 | -0.105 | -0.291 | 0.116 | -0.034 |
| 家具や電気製品も多彩な色を楽しみたい | 0.509 | -0.243 | -0.192 | 0.236 | -0.059 |
| 色に関する情報をテレビや雑誌などからよく取り入れている | 0.469 | -0.016 | -0.467 | 0.113 | 0.120 |
| 服装全体を同系色で統一することが多い | -0.121 | 0.819 | -0.108 | -0.112 | 0.020 |
| 1つの色にまとめた服装をするのが好きである | -0.028 | 0.813 | 0.038 | 0.084 | 0.091 |
| 無彩色（黒・白・灰）だけで統一した服装をすることがよくある | 0.126 | 0.639 | -0.057 | 0.053 | 0.002 |
| 1つの色に執着するほうである | 0.211 | 0.532 | 0.427 | 0.299 | 0.132 |
| 一度に使う色数は控えめにしている | 0.176 | 0.417 | -0.167 | -0.385 | 0.286 |
| いろいろな色の服を着ている | 0.133 | -0.150 | -0.710 | 0.320 | -0.075 |
| 着る目的や場所を考えて、色を選ぶようにしている | 0.300 | 0.091 | -0.600 | 0.169 | 0.204 |
| 衣服の色そのものより、組み合わせの配色を重視している | 0.376 | 0.212 | -0.589 | -0.127 | -0.088 |
| 流行の色は取り入れるようにしている | 0.246 | 0.114 | -0.488 | 0.259 | 0.011 |
| 色に関する情報をテレビや雑誌などからよく取り入れている | 0.469 | -0.016 | -0.467 | 0.113 | 0.120 |
| 人とは違う奇抜な色遣いをしている | 0.156 | 0.029 | -0.128 | 0.733 | -0.155 |
| 色の好みがよく変わる | 0.120 | -0.053 | -0.177 | 0.665 | 0.036 |
| 着ている服の色によって気分が左右されやすい | 0.211 | 0.184 | -0.154 | 0.501 | 0.244 |
| 膨張色を着ることを避ける | -0.120 | 0.169 | -0.283 | 0.177 | 0.757 |
| どんな色も抵抗なく着るほうである | -0.149 | -0.014 | -0.344 | 0.244 | -0.679 |
| 固 有 値 | 3.592 | 2.591 | 2.477 | 1.993 | 1.348 |
| 累 積 寄 与 率 (%) | 16.3 | 28.1 | 39.3 | 48.4 | 54.5 |
| 因 子 名 | 色の活用性とこだわり | 統一性 限定性 | 多彩性 社会適応性 | 色彩感度 被影響性 | 抵抗性 |

表2-2 女子の色彩意識の因子分析結果

| 項 目 | 第1因子 | 第2因子 | 第3因子 | 第4因子 | 第5因子 |
|-------------------------------|--------|--------|--------|------------|--------|
| 着る目的や場所を考えて、色を選ぶようにしている | -0.693 | 0.122 | -0.028 | -0.162 | 0.204 |
| 色に関する情報をテレビや雑誌などからよく取り入れている | -0.666 | 0.226 | 0.044 | 0.168 | 0.059 |
| 衣服の色そのものより、組み合わせの配色を重視している | -0.595 | 0.038 | -0.094 | 0.288 | -0.174 |
| バッグや履き物・靴の色にも気を配る | -0.567 | 0.090 | 0.035 | 0.441 | -0.000 |
| 衣服の素材と色との調和に気を配る | -0.531 | 0.041 | 0.165 | 0.233 | 0.023 |
| 流行の色は取り入れるようにしている | -0.446 | 0.174 | 0.089 | 0.070 | 0.202 |
| いろいろな色の服を着ている | -0.152 | 0.770 | -0.121 | 0.045 | 0.070 |
| どんな色も抵抗なく着るほうである | -0.001 | 0.765 | -0.114 | 0.079 | -0.004 |
| 色の好みがよく変わる | -0.176 | 0.604 | 0.162 | 0.094 | -0.078 |
| 人とは違う奇抜な色遣いをしている | -0.077 | 0.550 | 0.021 | 0.005 | 0.463 |
| 服装全体を同系色で統一することが多い | -0.011 | -0.045 | 0.814 | 0.157 | 0.016 |
| 1つの色にまとめた服装をするのが好きである | 0.057 | 0.047 | 0.814 | -0.011 | -0.038 |
| 無彩色（黒・白・灰）だけで統一した服装をすることがよくある | -0.210 | 0.029 | 0.574 | -0.277 | 0.019 |
| 家具やカーテンなど、インテリアの配色にも気を配る | -0.212 | 0.263 | -0.025 | 0.658 | -0.063 |
| 自分に似合う色が何色か、よく分かっている | -0.086 | 0.185 | -0.059 | 0.627 | 0.174 |
| 衣服の色にこだわるほうである | -0.146 | -0.092 | 0.025 | 0.560 | 0.369 |
| バッグや履き物・靴の色にも気を配る | -0.567 | 0.090 | 0.035 | 0.441 | -0.000 |
| 1つの色に執着するほうである | 0.102 | -0.382 | 0.276 | -0.001 | 0.614 |
| 着ている服の色によって気分が左右されやすい | -0.186 | 0.186 | -0.114 | 0.112 | 0.593 |
| 自分らしさの表現できる色遣いを心掛けている | -0.179 | 0.226 | -0.135 | 0.377 | 0.533 |
| 人とは違う奇抜な色遣いをしている | -0.077 | 0.550 | 0.021 | 0.005 | 0.463 |
| 固 有 値 | 2.539 | 2.486 | 2.142 | 2.011 | 1.701 |
| 累 積 寄 与 率 (%) | 11.5 | 22.8 | 32.5 | 41.7 | 49.4 |
| 因 子 名 | 配慮性 | 積極性 | 統一性 | 色の活用性とこだわり | 自己表現 |

若者の色彩意識と着行動の関連

表3 衣服購入時の重視項目の比較 (%)

| 項目 | 区分調査年 | | 全 体 | | 男 子 | | 女 子 | |
|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 1990年 | 1999年 | 1990年 | 1999年 | 1990年 | 1999年 | 1990年 | 1999年 |
| | 値段 | 69.6 | 67.1 | 76.9 | 69.3 | 62.4 | 64.9 | |
| サイズ・寸法 | 52.4 | 55.3 | 54.6 | 55.6 | 50.2 | 55.1 | | |
| デザイン | 59.7 | 56.1 | 46.3 | 51.1 | 72.9 | 61.1 | | |
| 模様・柄 | 24.9 | 21.4 | 31.5 | 20.9 | 18.6 | 22.0 | | |
| 色彩 | 28.1 | 24.0 | 28.2 | 23.5 | 28.1 | 24.4 | | |
| 仕立て・縫い方 | 5.3 | 2.6 | 5.6 | 4.0 | 5.0 | 1.1 | | |
| 生地・素材 | 16.5 | 11.2 | 13.9 | 12.2 | 19.0 | 10.2 | | |
| 着心地 | 11.0 | 18.3 | 11.6 | 20.9 | 10.4 | 15.7 | | |
| 取り扱いのしやすさ | 6.9 | 6.1 | 6.5 | 6.6 | 7.2 | 5.5 | | |
| メーカー・ブランド | 4.1 | 10.0 | 5.6 | 12.9 | 2.7 | 7.1 | | |
| 手持ちの服との組み合わせ | 18.5 | 26.6 | 14.8 | 21.1 | 22.2 | 32.0 | | |
| その他 | 0.2 | 0.4 | 0.5 | 0.6 | 0.0 | 0.2 | | |

*1999年の数値は上衣と下衣の値を平均したものである。

表4 衣服(上衣)着用時の色選択における重視項目の比較 (%)

| 項目 | 区分調査年 | | 全 体 | | 男 子 | | 女 子 | |
|----------------------------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 1990年 | 1999年 | 1990年 | 1999年 | 1990年 | 1999年 | 1990年 | 1999年 |
| | 好きな色を選ぶ | 65.0 | 65.1 | 69.0 | 68.9 | 61.1 | 61.3 | |
| 似合う色を選ぶ | 55.4 | 56.7 | 47.2 | 47.6 | 63.3 | 65.8 | | |
| 季節に合った色を選ぶ | 29.1 | 15.3 | 23.1 | 14.2 | 34.8 | 16.4 | | |
| 流行色(に注意して選ぶ) | 1.8 | 8.2 | 2.3 | 6.2 | 1.4 | 10.2 | | |
| 欠点をカバーしてくれる色を選ぶ | 4.1 | 3.6 | 3.7 | 0.9 | 4.5 | 6.2 | | |
| 自分らしさが表現(個性が強調)できる色を選ぶ | 7.1 | 24.4 | 7.9 | 23.1 | 6.3 | 25.8 | | |
| ポピュラーで無難な色を選ぶ | 26.5 | 19.3 | 26.9 | 19.1 | 26.2 | 19.6 | | |
| その日の気分によって決める | 37.5 | 28.7 | 33.8 | 31.6 | 41.2 | 25.8 | | |
| 着る上衣(下衣)との関係で決める こだわらない | 20.4 | 51.6 | 15.7 | 46.2 | 24.9 | 56.9 | | |
| | 9.8 | 8.0 | 16.7 | 12.9 | 3.2 | 3.1 | | |

表5 色彩意識に関する項目の比較

| 項目 | 区分調査年 | | 全 体 | | | 男 子 | | | 女 子 | | | 男女間の有意差 | |
|-------------------------------|-------|-------|---------------------|-------|-------|---------------------|-------|-------|---------------------|-------|-------|---------|-------|
| | 1990年 | 1999年 | 1990と1999年間 の有意差 | 1990年 | 1999年 | 1990と1999年間 の有意差 | 1990年 | 1999年 | 1990と1999年間 の有意差 | 1990年 | 1999年 | 1990年 | 1999年 |
| | | 平均値 | 平均値 | | 平均値 | 平均値 | | 平均値 | 平均値 | | 平均値 | 平均値 | |
| 衣服の色にこだわるほうである | 3.06 | 3.04 | — | 2.92 | 2.98 | — | 3.20 | 3.10 | — | *** | — | | |
| 流行の色は取り入れるようにしている | 2.03 | 2.14 | * | 1.91 | 1.98 | — | 2.14 | 2.29 | * | ** | *** | | |
| 着る目的や場所を考えて、色を選ぶようにしている | 2.54 | 2.68 | ** | 2.59 | 2.43 | — | 3.08 | 2.94 | — | *** | *** | | |
| 着ている服の色によって気分が左右されやすい | 2.25 | 2.00 | *** | 2.00 | 1.85 | — | 2.49 | 2.16 | *** | *** | *** | | |
| 1つの色に執着するほうである | 2.33 | 2.27 | — | 2.29 | 2.30 | — | 2.36 | 2.25 | — | — | — | | |
| 自分らしさの表現できる(個性的な)色遣いを心掛けている | 2.27 | 2.50 | *** | 2.23 | 2.41 | * | 2.30 | 2.58 | *** | — | * | | |
| 色の好みがよく変わる | 1.91 | 2.02 | * | 1.81 | 1.87 | — | 2.00 | 2.18 | * | ** | *** | | |
| バッグや履き物・靴の色にも気を配る | 2.51 | 2.67 | ** | 2.21 | 2.54 | *** | 2.81 | 2.81 | — | *** | ** | | |
| 1つの色にまとめた服装をするのが好きである | 2.57 | 2.26 | *** | 2.41 | 2.31 | — | 2.73 | 2.21 | *** | *** | — | | |
| 衣服の色そのものより、組み合わせの配色を重視する | 2.85 | 2.87 | — | 2.66 | 2.75 | — | 3.03 | 2.98 | — | *** | ** | | |
| 無彩色(黒・白・灰)だけで統一した服装をすることがよくある | 2.18 | 2.29 | — | 2.20 | 2.40 | * | 2.16 | 2.18 | — | — | * | | |
| 家具やカーテンなど、インテリアの配色にも気を配る | 2.40 | 2.31 | — | 2.15 | 2.15 | — | 2.63 | 2.47 | * | *** | *** | | |

***P<0.001 **P<0.01 *P<0.05

心地」「メーカー・ブランド」「手持ちの服との組み合わせ」であり、低くなったのは「生地・素材」「色彩」「仕立て・縫い方」である。

男子においては、「着心地」「メーカー・ブランド」「手持ちの服との組み合わせ」「デザイン」が特に高くなっており、ファッション性を意識する傾向が高まり、おしゃれに関心を持つ者が増えている。女子においては、「手持ちの服との組み合わせ」「着心地」「サイズ・寸法」が特に高くなり、身体との適合性や快適性、実用性を考慮する者が多くなったといえる。

衣服購入時に「色彩」を重視する割合がやや減少している。これは着装に関する意識がより高まり、重視するものが多様化してきたためと考えられる。

2) 衣服着用時の色選択における重視内容

1990年時より、全体的に高くなったのは、「着る上衣(下衣)との関係」「自分らしさが表現(個性が強調)できる色」「流行色」であり、低くなったのは、「季節に合った色」「その日の気分」「ポピュラーで無難な色」「こだわらない」である。流行色を取り入れる意識はやや高くなり、自分らしさの表現(個性の強調)や衣服のコーディネート配色を考慮する者が以前よりかなり増え、服装による表現や演出の関心が高まり、いろいろな色に興味を持って、それを取り入れようとする意識が強くなっている。季節感を取り入れる意識は低下し、シーズンレスの傾向が見られ、ポピュラーで無難な色選びをする者は今回も多い。女子においては「欠点をカバーしてくれる色」で、身体欠点をカバーする意識が高くなっている。身体意識の高まりと関係している。

3) 色彩意識に関する項目

色彩意識に関して1990年と1999年調査結果間に有意差がみられたのは、男子においては「バッグや履物・靴の色にも気を配る」「自分らしさの表現できる（個性的な）色遣いを心掛けている」「無彩色（黒・白・灰）だけで統一した服装をすることがよくある」、女子においては「1つの色にまとめた服装をするのが好き」「着ている服の色によって気分が左右されやすい」「自分らしさの表現できる（個性的な）色遣いを心掛けている」「色の好みがよく変わる」「流行の色は取り入れるようにしている」「家具やカーテンなど、インテリアの配色にも気を配る」である。

男子において有意差がみられたものは、いずれも増加傾向にあり、今も男女間の意識の違いはあるものの、男子の色に対するこだわりやおしゃれ意識は高くなっており、色に対する意識の男女差が近づいてきているといえる。男女ともに「着ている服の色によって気分が左右されやすい」と感じる者は減少しているが、「自分らしさの表現できる（個性的な）色遣いを心掛けている」者が多くなっていることから、色による影響を受け身的に感じるだけでなく、意識的に色を取り入れることによって、色の持つイメージや周りに及ぼす影響などを効果的に利用する意識が高まったと考えられる。色に対するこだわりや意識は多様化してきている。

6. 着装・生活に関する意識

以上のような色彩意識を持つ若者の着装意識と生活意識を探ると図4、5となる。

1) 着装意識が高いのは、「着心地の良いものを着る」「動きやすい服装を好む」「シンプルで飽きのこないものを着る」「服を着ることは楽しい」「丈夫で長く利用できるものを着る」であり、意識が低いのは、「体の線がはっきり出るタイトな服装をする」「様々なタイプのファッションに積極的に挑戦する」「個性的なものを着る」「衣服で体型の欠点をカバーしている」である。着心地の良さ、動きやすさなどの機能性、飽きのこない、丈夫で長く利用できるという実用性とシンプル性に対する意識が高く、服を着ることを楽しんでいる者が多い。個性的な服装をする者は少ない。

男女間に有意差が認められた15項目のうち男子の意識が高いのは、「いつも男らしい服装を心掛けている」「体の線がはっきり出るタイトな服装をするのが好き」である。男子の方が服装による社会的な性役割をより強く意識し、体の線を出すことに抵抗が少ない。

女子が優位な項目からみると、女子は服装を楽しみ、体型の欠点カバーに対する意識が高く、服装と身体の関係に気を配っており、時間・場所・目的に合った服装や年齢に対するふさわしさなど社会性をより考慮している。友人とファッションの話をしたり、意識的にマスコミから情報を取り入れ、他人の評価や周囲のファッション動向を気にしており、自分の魅力を高めたり、自分のファッションセンスを磨こうとする意欲が強い。服装から人を判断したり、自己を演出したりする服装による表現性への関心が高い。

2) 生活に関しては、購入したい物があり、いろいろな分野に興味を持ち、それぞれ打ち込めるものがあり、目標に向かって努力するなど意欲的・活動的であり、学業にはあまり精を出していないが、毎日を楽しく過ごせている。流行に敏感ではなく、しきたりや慣習など社会規範をあまり気にしておらず、自分の生活に対しては約58%が満足している。

男女間に有意差が認められたのは6項目であり、そのうち女子の意識が高いのは「流行に敏感である」のみで、他は男子の意識が高い。男子は日常的に運動やスポーツ活動を取り入れ、

若者の色彩意識と着装行動の関連

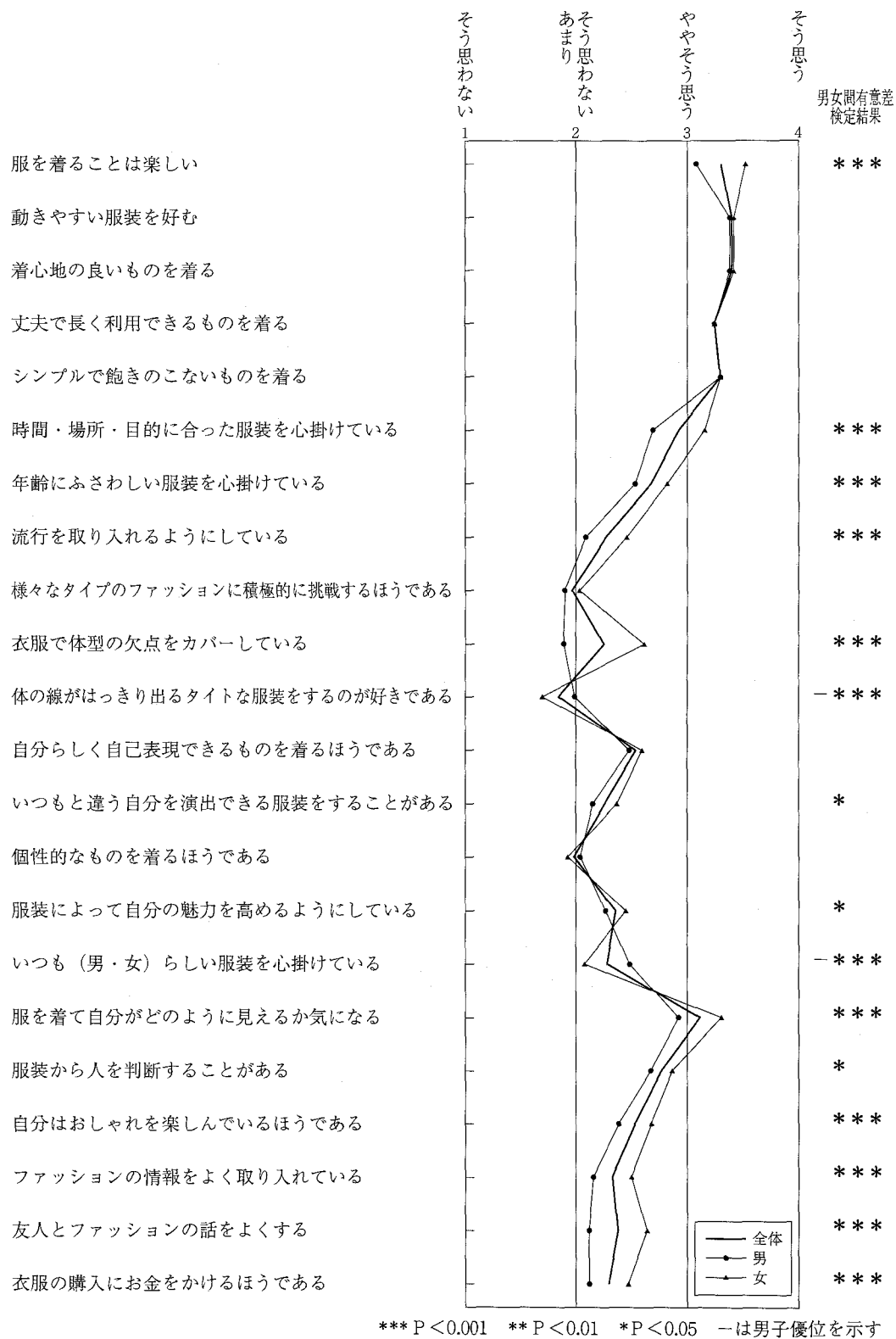
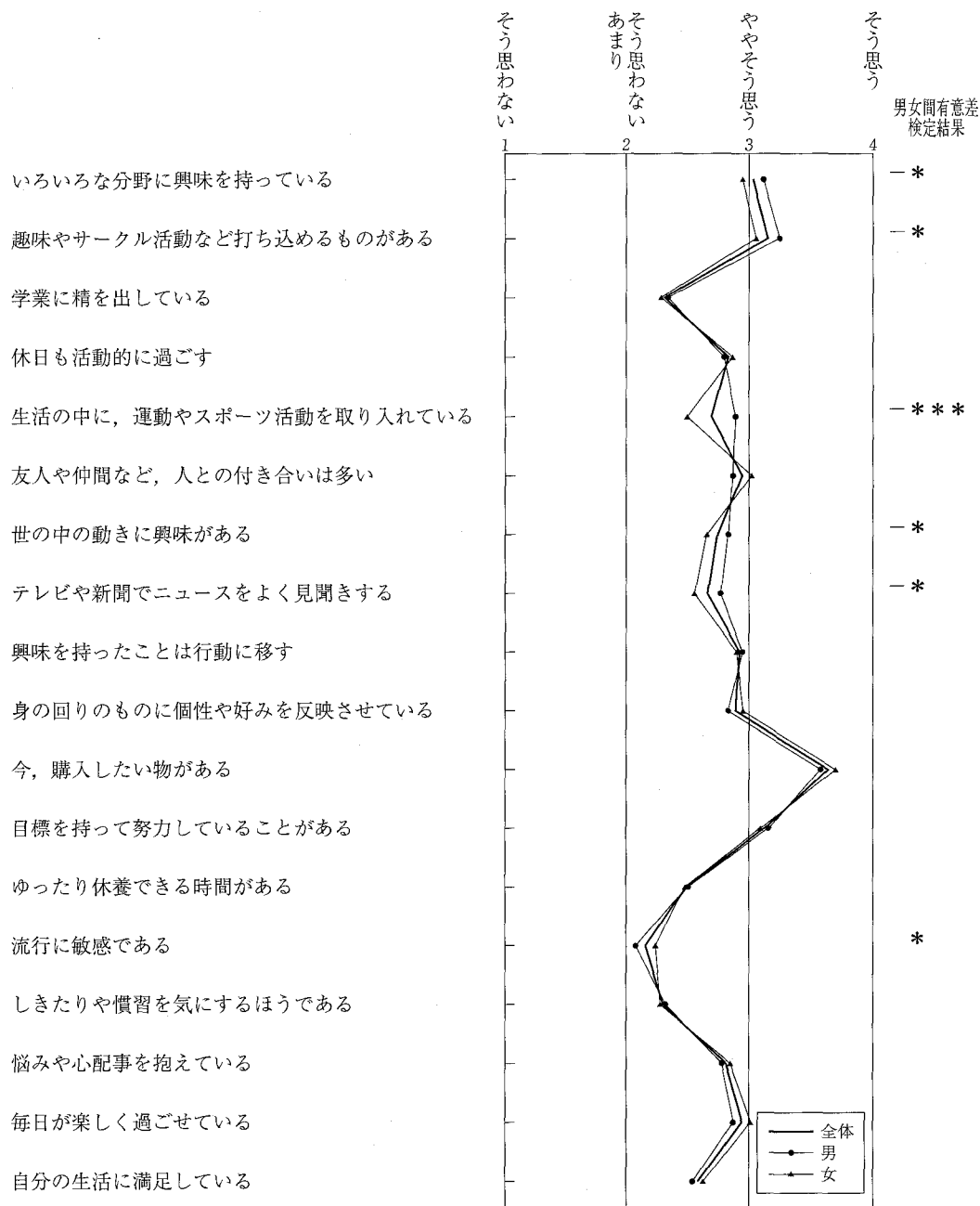


図4 着装意識のプロフィール（全体・男・女）



*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05 -は男子優位を示す

図5 生活意識のプロフィール (全体・男・女)

自分の興味ある分野に打ち込むなど、より活動的で、社会動向を気にしており、社会性が強い。女子の方はより流行意識が強い。

7. 色彩意識との関係からみる具体的内容

具体的内容に対する反応を、そう思う（ややそう思うを含む）とそう思わない（あまりそう思わないを含む）の2群とし、色彩意識、着衣意識との反応とクロス集計し、有意差検定を行って、それぞれとの関係を探った（表6）。図6は内容の4段階評価とχ²検定結果である。

若者の色彩意識と着装行動の関連

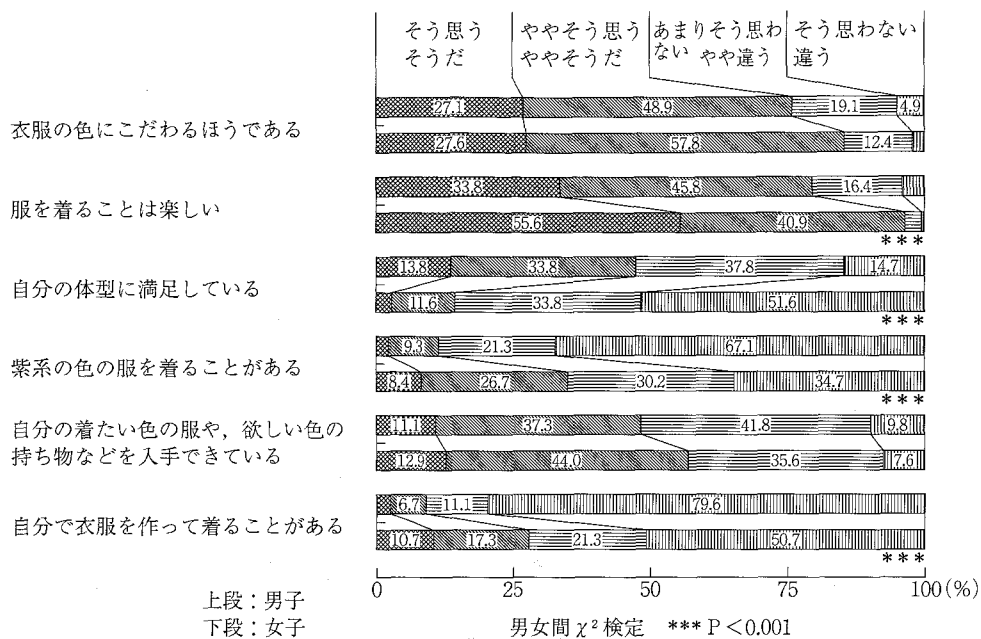


図6 色彩・着装意識の4段階評価結果 (男女別)

1) 「服色へのこだわり」と色彩意識

「衣服の色にこだわる」のは、ややこだわるを含めると、男子は76.0%、女子は85.4%となり、どちらも多い。

「衣服の色にこだわる」意識に関与している色彩意識は、男子14項目、女子は9項目となる。男子は、バッグや履物の色への配慮、色による自己表現、色に関する情報、素材と色の調和、流行色、似合う色の把握、家具や電気製品の多彩色を楽しみ、インテリアの配色にも気を配り、心理的影響、T・P・Oの配慮などの面で強い関連がみられる。女子は、インテリアの配色、流行色、色による自己表現、入手の満足度、一度に使う色数を控えるなどと強く関わっている。

あらゆる色遣いへの関心・配慮の面において、男子の方が色へのこだわりの強さとの関連性が高く、こだわりのある者とない者の差がはっきりしている。

服色へのこだわり意識と着装意識間には、男子17項目、女子8項目のかかわりが認められた。服色にこだわる者は、ファッションや流行情報に関心が強く、おしゃれを楽しみ、着装を楽しんでいる。その関わりは、女子より男子に、よりはっきり表れている。

2) 「着装の楽しさ」と色彩意識

「服を着ることは楽しい」と意識している男子は79.6%、女子は96.5%である。

「服を着ることは楽しい」意識に関与しているのは、男子では、バッグや履物の色、色に関する情報、服色へのこだわり、流行色、似合う色の把握、組み合わせの配色、素材との調和、色による自己表現、多彩性、社会性、インテリアの配色、入手の満足度、奇抜さなどの配慮で関連が強い。女子は組み合わせの配色、多彩性、似合う色の把握、バッグや履物の色、素材との調和、色による自己表現、服色へのこだわり、インテリアの配色、一度に使う色数を控える、心理への影響、社会性、色に関する情報を取り入れるなどと関連が強い。

表6 2群間の χ^2 検定結果 - 色彩意識・着装意識との関連

| 色彩意識項目 着装意識項目 | 性別 女-男 | 服色へのこだわり別 こだわる-こだわらない | | 着装の楽しさ別 楽しい-そうでない | | 体型の満足度別 満足-不満足 | | 服を作って着る そうで-違う |
|-------------------------------|-----------|--------------------------|------|----------------------|------|-------------------|-----|-------------------|
| | | 男子 | 女子 | 男子 | 女子 | 男子 | 女子 | |
| | | 全体 | | | | | | |
| 衣服の色にこだわるほうである | **** | **** | ** | **** | **** | | -* | * |
| 流行の色は取り入れるようにしている | **** | **** | ** | **** | * | | | |
| いろいろな色の服を着ている | * | * | | **** | **** | | | *** |
| 着る目的や場所を考えて、色を選ぶようにしている | **** | ** | | **** | ** | | | ** |
| 着ている服の色によって気分が左右されやすい | ** | ** | | * | ** | | | ** |
| 1つの色に執着するほうである | | | | | | | | |
| 自分らしさの表現できる色遣いを心掛けている | * | **** | ** | **** | **** | | | *** |
| 人とは違う奇抜な色遣いをしている | | * | | ** | | | | * |
| 色の好みがよく変わる | ** | ** | | **** | | | | * |
| 自分に似合う色が何色か、よく分かっている | | **** | * | **** | **** | | | |
| どんな色も抵抗なく着るほうである | | | | | | ** | ** | |
| 一度に使う色数は控えめにしている | **** | | * | | **** | | | |
| 服装全体を同系色で統一することが多い | | | | | * | | * | |
| 1つの色にまとめた服装をするのが好きである | | | | | | | | |
| 膨張色を着ることを避ける | **** | | | | | | | |
| 衣服の色そのものより、組み合わせの配色を重視している | ** | | | **** | **** | | | |
| 無彩色(黒・白・灰)だけで統一した服装をすることがよくある | -* | | | | | | | |
| バッグや履物・靴の色にも気を配る | **** | **** | | **** | **** | | | *** |
| 衣服の素材と色との調和に気を配る | ** | **** | * | **** | **** | * | | * |
| 色に関する情報をテレビや雑誌などからよく取り入れている | **** | **** | * | **** | ** | | | *** |
| 家具やカーテンなど、インテリアの配色にも気を配る | ** | ** | *** | **** | ** | ** | | *** |
| 家具や電気製品も多様な色を楽しみたい | | **** | * | **** | **** | | | *** |
| その日の服装とハンカチの色の組み合わせにも気を配る | ** | | | | | | | *** |
| 紫系の色の服を着ることがある | **** | | | | | | | *** |
| 自分の着たい色の服や欲しい色の持ち物などを入手できている | | * | ** | ** | | ** | | |
| 服を着ることは楽しい | **** | **** | ** | | | | | ** |
| 動きやすい服装を好む | **** | ** | | * | | | | |
| 着心地の良いものを着る | | | | | ** | | | |
| 丈夫で長く使用できるものを着る | | | | | | | | |
| シンプルで飽きのこないものを着る | | | | | | | | |
| 時間・場所・目的に合った服装を心掛けている | **** | ** | | **** | | | | * |
| 年齢にふさわしい服装を心掛けている | **** | | * | * | | | | |
| 流行を取り入れるようにしている | **** | ** | ** | **** | | *** | | |
| 様々なタイプのファッションに積極的に挑戦するほうである | **** | **** | | **** | | | | *** |
| 衣服で体型の欠点をカバーしている | **** | **** | | **** | **** | -* | -* | *** |
| 体の線がはっきり出るタイトな服装をするのが好きである | **** | ** | | **** | * | | *** | |
| 自分らしく自己表現できるものを着るほうである | | **** | | **** | **** | | | * |
| いつもと違う自分を演出できる服装をすることがある | * | ** | | **** | **** | | | *** |
| 個性的なものを着るほうである | | ** | | **** | **** | | | * |
| 服装によって自分の魅力を高めるようにしている | * | **** | * | **** | **** | | * | *** |
| いつも(男・女)らしい服装を心掛けている | -**** | | | **** | ** | * | | |
| 服を着て自分がどのように見えるか気になる | **** | **** | | **** | ** | | | |
| 服装から人を判断することがある | * | * | | **** | **** | | | * |
| 自分はおしゃれを楽しんでいるほうである | **** | **** | ** | **** | ** | | | *** |
| ファッションの情報をよく取り入れている | **** | **** | **** | **** | * | * | | *** |
| 友人とファッションの話をよくする | **** | **** | **** | **** | **** | | | *** |
| 自分で衣服を作って着ることがある | **** | ** | | | | | | |
| 衣服の購入にお金をかけるほうである | **** | **** | **** | **** | **** | | | |

- は男子優位, 否定群優位を示す

χ^2 検定 ***P<0.001 **P<0.01 *P<0.05

男女ともに着る楽しさと色彩意識との関連があらゆる面で見られ、女子より男子において関連性が高い。

着装意識との関わりもあらゆる面で見られ、男子の方により強く表れている。

3) 「体型の満足度」と色彩意識

「自分の体型に満足している」男子は47.6%, 女子は14.6%である。

「自分の体型に満足している」意識に関与しているのは、男子は、着たい色の服・欲しい色

の持ち物の入手の満足度、インテリアの配色、着用色の広がり、素材との調和などの考慮に関わりがみられ、女子は、着用色の多彩性、服色へのこだわり、同系色でまとめるなど関わっている。

男女ともに着用色の多彩性との関連性が高い。

体型満足度と着装意識との関わりは、身体意識と着装行動に関する研究¹³⁾で多面的に検討しているように、体型に満足している男子は、流行やファッションの情報を取り入れ、新しいファッションに挑戦し、男らしい服装を好む。体型に満足している女子は、体のラインがはっきり出る服を好み、服装によって自分の魅力を高めようとしている。

「服色へのこだわり」「着装の楽しさ」「体型の満足度」と色彩意識、着装意識間で有意差を示す項目数は、いずれも女子より男子に多く、関連性が強く表れている。これは色彩意識、着装意識の男女間の有意差からみると、いずれも女子のほうが全般的に高いこと、男子には意識の強弱があることにより、男子に関連性が強く表れたと考えられる。

また、「服色へのこだわり」「着装の楽しさ」において、バッグや履物の色、インテリアの配色、電気製品の多彩性など、衣服以外の色への関心とも関連がみられ、衣服の色を楽しむ意識と広い範囲の色を楽しむ意識には関係があり、自己表現、流行、自分に似合う色の把握を考慮することが大きく関わっている。

4) 紫色に対する反応

紫色は、古来、高貴な色とされ、日本だけではなく、多くの民族や文明の中で尊ばれてきた。これまで一般的には、着こなしも難しい色として敬遠されていた面がある。しかし、服装の多様化や多彩化に伴い、近年また、おしゃれな色として注目を浴び、以前に比べて受け入れられやすくなっているように思われる。

「紫系の色の服を着ることがある」のは、ややあるも含めると、女子35.1%に対し、男子にも11.6%存在し、男女ともに紫色の服が利用されている。

紫色を取り入れる意識と衣服の色にこだわる意識との関係を探ると(図7)、服色へのこだわりが強いほど、紫系色の服を着用している者が多く、紫系の色のように、一般的に他の色と比べて着用することに抵抗があったり、扱い方が難しいとされがちな色でも前向きに活用しようとする意識が高い。

5) 着たい・欲しい色の入手状況

「自分の着たい色の服や、欲しい色の持ち物などを入手できている」のは、男子48.4%、女子56.9%である。

自分の着たい色の服や、欲しい色の持ち物などを入手できているかどうかと服色にこだわる意識との関連をみると(図8)、服色へのこだわりが強い者ほど、自分の着たい色の服や欲しい色の持ち物を入手できており、色にこだわらない者の方が入手に関する満足度が低い。色にこだわりを持つ者は、着用したい色や欲しい色の入手のために努力するが、こだわりの低い者は、無理にそれを入手しようとする行動にはでないものとする。

6) 「衣服を作って着る」と色彩意識・着装意識

衣服を作って着ることがある者は、男子9.3%、女子28.0%である(図6)。衣服を作って着るかどうか(2群)と色彩・着装意識の関連は表6となる。色彩意識との関連は、色に関する情報の入手、紫系の服の着用、多彩性、インテリアの配色、バッグや履物・靴の色、服装とハンカチの色の組み合わせ、自分らしさの表現、気分、電気製品の色、T・P・Oの考慮、素材と

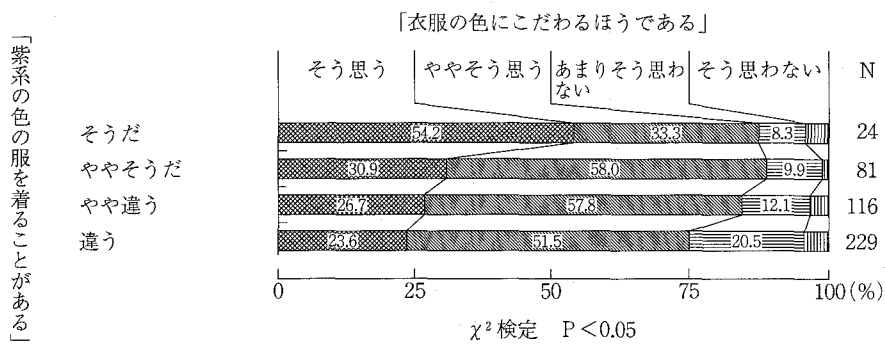


図7 「衣服の色にこだわるほうである」・「紫系の色の服を着ることがある」のクロス集計結果 (全体)

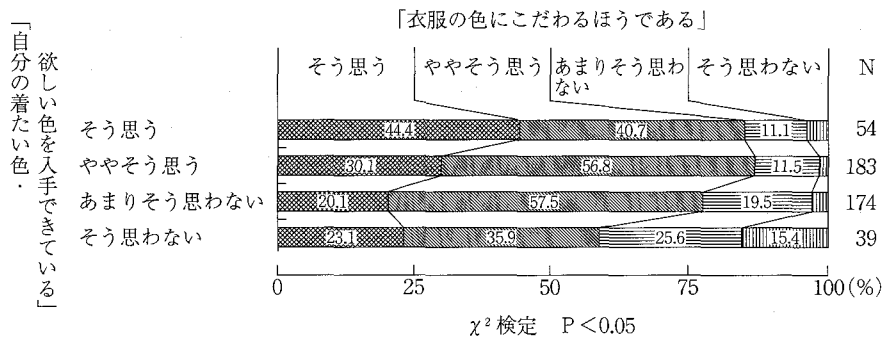


図8 「衣服の色にこだわるほうである」・「自分の着たい色・欲しい色を入手できている」のクロス集計結果 (全体)

の調和など14項目でみられた。自分で製作したり、手を加えた衣服を着る者は、色を取り入れることにも積極的で、衣服以外の色にも気を配り、細かいところまで配慮している。より鋭い感覚を持って、自分流に色を楽しんでいる。

着意意識との関連では、おしゃれ意識、ファッションに対する積極性、情報の入手、身体欠点のカバー性、自分の魅力を高める意識、自己演出、着意の楽しさなどあらゆる面で関連がみられた。衣服を作って着る者は、ファッションの動向を意識しつつ、自分なりのこだわりを持ち、服装によって自分自身をよりよく見せたり、様々なタイプのファッションに挑戦したり、表現行動としての着意意識が高く、おしゃれを積極的に楽しんでいる。

衣服を作って着る者は、色彩・服装面ともに、入手した情報から自分の個性や好みに合うものを上手く取り入れ、自分なりに活かすことが長けており、鋭い感性を持って、一歩先に行く楽しみ方をしているといえる。自分に合う衣服を作ることは、自分の身体はもちろん、内面的な部分へ細かく意識を向けることになり、自分の着る衣服を自ら製作する者は、自分自身の変化により敏感である。

8. 色彩意識の類型化、着意意識・生活意識との関連—数量化Ⅲ類・クラスター分析結果

着意意識22項目への反応パターンをもとに数量化Ⅲ類による分析を行い、析出された軸へのサンプル得点をもとにクラスター分析を行った結果、男女ともに4タイプに分類できた。男女

別に4クラスターと着装・生活・色彩意識項目とのクロス集計を行い、タイプの特徴を分析した。

表7-1, 7-2は各タイプに高い率で表れた項目の割合及び構成比を示している。

1) 男子の類型化・タイプ別特徴

タイプ1は、動きやすく、着心地が良く、シンプルで飽きがこない、丈夫で長く利用できるなど機能性や実用性を重視した服装をし、流行、自己演出や自己表現、ファッション情報に対する関心は低く、衣服の購入にお金をかけず、おしゃれにあまり関心がなく、ファッション性は気にしない。生活面では流行に敏感ではなく、打ち込めるものはあるが、意欲的、活動的なほうではない。

色彩意識は、流行、情報、自己表現、バッグや履物の色、素材との調和、インテリアの配色など、色に対して全体的に意識が低く、色に関心がないタイプである。

タイプ2は、機能性や実用性に加え、T・P・O、年齢のふさわしさなどの社会性を重視しているが、積極的におしゃれを楽しんでいるほうではない。流行に敏感ではないが、世の中の動きには興味・関心があり、人付き合いは多く、毎日を楽しく、やや活動的に過ごしている。

色彩意識は、色数を控えめにしたり、同系色でまとめることが多く、統一性や組み合わせの配色を重視し、無難な色遣いをし、多彩性が低く、流行や情報はあまり取り入れないタイプである。

タイプ3は、機能性や実用性も重視しつつ、流行や性差にはこだわらず、人目は気にするが、自分らしさや個性を大切に、積極的に独自のおしゃれを楽しんでいる。いろいろな分野に興味はあるが、流行や社会規範などはあまり気にしない。

色彩意識は、バッグや履物の色、組み合わせの配色など全身のコーディネートに気を配りながら、膨張色や流行色は気にせず、自分なりに多彩な色遣いを楽しんでいるタイプである。

タイプ4は、機能性、実用性、社会性とともなファッション性にも気を配っており、情報や流行は積極的に取り入れ、お金もかけておしゃれを楽しむが、他人意識が強く、個性的なものを着るほうではない。いろいろな分野に興味を持ち、行動力があり、流行に敏感で、趣味やサークル・スポーツ活動などにも意欲的に取り組み、人付き合いも多く、生活の中に個性や好みを反映させながら、意欲的、活動的に楽しく生活している。他のタイプと比べて生活の満足度も高い。

色彩意識は、衣服の色へのこだわりが強く、全身のコーディネートに気を配っており、奇抜な色遣いはせず、自己表現、素材との調和、T・P・O、情報など色遣いで考慮するものは多い。他のタイプと比べて、インテリアの配色を配慮する意識も高いタイプである。

各タイプの特徴を色彩・着装・生活面から、次のようにまとめることができる。

タイプ1は、服装・色彩ともにあまり関心がなく、生活面でもあまり意欲的・活動的でないタイプである。

タイプ2は、機能性、実用性、社会性を重視し、生活面では活動的なほうだが、おしゃれには消極的で、服装・色彩ともに無難さを好むタイプである。

タイプ3は、社会性は気にせず、服装・色彩ともに自分らしさや個性の表現に積極的で、独自に追求していくタイプである。

タイプ4は、全体的に意識が高く、活動的で、他人意識が強く、奇抜さはないが、服装・色彩ともに多方面で積極的に気を配りながら楽しんでいるタイプである。

表7-1 男子のタイプ別状況

| タイプ 構成比 | 着意識上位項目 (%) | 生活意識上位項目 (%) | 色彩意識上位項目 (%) |
|--------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|
| タイプ 1 68人 (30.2%) | 動きやすい服装を好む (94.1) | 今、購入したい物がある (82.4) | 人とは違う奇抜な色遣いをしていない (98.5) |
| | 着心地の良いものを着る (94.1) | 趣味やサークル活動など打ち込めるものがある (79.4) | 流行の色は取り入れるようにしていない (97.1) |
| | シンプルで飽きのこないものを着る (92.6) | 目標を持って努力していることがある (73.5) | 色に関する情報をテレビや雑誌などから取り入れていない (95.6) |
| | 丈夫で長く利用できるものを着る (91.2) | テレビや新聞でニュースをよく見聞かする (70.6) | 着ている服の色によって気分が左右されやすい (91.2) |
| | 様々なタイプのファッションに積極的に挑戦するほうではない (100.0) | いろいろな分野に興味を持っている (69.1) | バッグや履物・靴の色に気を配らない (89.7) |
| | 流行を取り入れるようにしていない (97.1) | 流行に敏感ではない (95.6) | 衣服の素材と色との調和に気を配らない (89.7) |
| | 体の線がはっきり出るタイプの服装をするのが好きではない (97.1) | 学業に精を出していない (63.2) | 家具や電気製品も多彩な色を楽しみたい (86.8) |
| | いつもと違う自分を演出できる服装をすることがない (97.1) | | 着る目的や場所を考えて、色を選ぶようにしていない (85.3) |
| | 自分はおしゃれを楽しんでいるほうではない (95.6) | | 色の好みは変わらない (83.8) |
| | ファッションの情報を取り入れていない (95.6) | | いろいろな色の服を着ていない (82.4) |
| | 友人とファッションの話をしていない (95.6) | | 家具やカーテンなど、インテリアの配色に気を配らない (82.4) |
| 衣服にお金をかけるほうではない (94.1) | | 自分らしさの表現できる色遣いを心掛けていない (80.9) | |
| 衣服で体型の欠点をカバーしていない (92.6) | | | |
| 服装によって自分の魅力を高めるようにしていない (92.6) | | | |
| タイプ 2 65人 (28.9%) | 服を着ることは楽しい (93.8) | 今、購入したいものがある (90.8) | 一度に使う色数は控えめにしている (80.0) |
| | 着心地の良いものを着る (93.8) | 趣味なサークル活動など打ち込めるものがある (81.5) | 衣服の色そのものより、組み合わせの配色を重視している (78.5) |
| | 服を着て自分がどのように見えるか気になる (93.8) | 毎日が楽しく過ごせている (81.5) | 衣服の色にこだわるほうである (76.9) |
| | シンプルで飽きのこないものを着る (92.3) | 友人や仲間など人との付き合いが多い (80.0) | 服装全体を同系色で統一することが多い (69.2) |
| | 動きやすい服装を好む (90.8) | 友人や仲間など人との付き合いが多い (80.0) | 人とは違う奇抜な色遣いをしていない (92.3) |
| | 時間・場所・目的に合った服装を心掛けている (87.7) | 目標を持って努力していることがある (78.5) | 色の好みは変わらない (86.2) |
| | 丈夫で長く利用できるものを着る (83.1) | 興味を持ったことは行動に移す (73.8) | 流行の色は取り入れるようにしていない (81.5) |
| | 年齢にふさわしい服装を心掛けている (76.9) | 世の中の動きに興味がある (70.8) | 着ている服の色によって気分が左右されやすい (81.5) |
| | 服装から人を判断することがある (70.8) | 流行に敏感ではない (81.5) | 色に関する情報をテレビや雑誌などから取り入れていない (81.5) |
| | 様々なタイプのファッションに積極的に挑戦するほうではない (95.4) | | |
| | 友人とファッションの話をしていない (89.2) | | |
| 個性的なものを着るほうではない (87.7) | | | |
| タイプ 3 35人 (15.6%) | 服を着ることは楽しい (97.1) | いろいろな分野に興味を持っている (88.6) | 衣服の色にこだわるほうである (85.7) |
| | 動きやすい服装を好む (88.6) | 今、購入したい物がある (88.6) | バッグや履物・靴の色にも気を配る (77.1) |
| | 自分らしく自己表現できるものを着るほうである (88.6) | 趣味やサークル活動など打ち込めるものがある (77.1) | いろいろな色の服を着ている (68.6) |
| | 着心地の良いものを着る (85.7) | 目標を持って努力しているものがある (77.1) | 自分に似合う色が何色か、よく分かっている (62.9) |
| | シンプルで飽きのこないものを着る (77.1) | 友人や仲間など人との付き合いが多い (71.4) | 衣服の色そのものより、組み合わせの配色を重視している (62.9) |
| | 個性的なものを着るほうである (77.1) | 流行に敏感ではない (77.1) | 膨張色を着ることを避けない (77.1) |
| | 自分はおしゃれを楽しんでいるほうである (77.1) | しきたりや慣習を気にするほうではない (62.9) | 流行の色は取り入れるようにしていない (74.3) |
| | 流行を取り入れるようにしていない (77.1) | | 色の好みは変わらない (74.3) |
| いつも(男・女)らしい服装を心掛けている (77.1) | | 1つの色にまとめた服装をするのが好きではない (71.4) | |
| タイプ 4 57人 (25.3%) | 服を着ることは楽しい (98.2) | 今、購入したいものがある (96.5) | 衣服の色にこだわるほうである (93.0) |
| | 服を着て自分がどのように見えるか気になる (98.2) | いろいろな分野に興味を持っている (87.7) | バッグや履物・靴の色にも気を配る (80.7) |
| | 着心地の良いものを着る (94.7) | 趣味やサークル活動など打ち込めるものがある (86.0) | 衣服の色そのものより、組み合わせの配色を重視している (75.4) |
| | 自分はおしゃれを楽しんでいるほうである (94.7) | 友人や仲間など人との付き合いが多い (82.5) | 自分に似合う色が何色か、よく分かっている (71.9) |
| | ファッションの情報をよく取り入れている (94.7) | 身の回りのものに個性や好みを反映させている (82.5) | 自分らしさの表現できる色遣いを心掛けている (70.2) |
| | 動きやすい服装を好む (93.0) | 目標を持って努力していることがある (82.5) | 衣服の素材と色との調和に気を配る (68.4) |
| | 丈夫で長く利用できるものを着る (91.2) | 興味を持ったことは行動に移す (80.7) | 着る目的や場所を考えて、色を選ぶようにしている (66.7) |
| | シンプルで飽きのこないものを着る (89.5) | 毎日が楽しく過ごせている (80.7) | 色に関する情報をテレビや雑誌などから取り入れている (66.7) |
| | 友人とファッションの話をよくする (86.0) | 休日も活動的に過ごす (77.2) | 家具やカーテンなど、インテリアの配色にも気を配る (64.9) |
| | 年齢にふさわしい服装を心掛けている (80.7) | 悩みや心配事を抱えている (77.2) | 人とは違う奇抜な色遣いをしていない (78.9) |
| | 流行を取り入れるようにしている (80.7) | 流行に敏感である (75.4) | |
| | 衣服の購入にお金をかけるほうである (80.7) | 生活の中に、運動やスポーツ活動を取り入れている (73.7) | |
| | 個性的なものを着るほうではない (70.2) | 自分の生活に満足している (71.9) | |

若者の色彩意識と着行動の関連

表7-2 女子のタイプ別状況

| タイプ 構成比 | 着意意識上位項目 (%) | 生活意識上位項目 (%) | 色彩意識上位項目 (%) |
|-------------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------|-------------------------------------|
| タイプ1 54人 (24.0%) | 服を着ることは楽しい (100.0) | 今、購入したいものがある (98.1) | 衣服の色にこだわるほうである (94.4) |
| | 自分らしく自己表現できるものを着るほうである (96.3) | 身の回りのものに個性や好みを反映させている (94.4) | 着る目的や場所を考えて、色を選ぶようにしている (88.9) |
| | 時間・場所・目的に合った服装を心掛けている (94.4) | 興味を持ったことは行動に移す (90.7) | バッグや履物・靴の色にも気を配る (85.2) |
| | 自分はおしゃれを楽しんでいるほうである (94.4) | 友人や仲間など、人との付き合いは多い (88.9) | 自分らしさの表現できる色遣いを心掛けている (83.3) |
| | 着心地の良いものを着るほうである (92.6) | 目標を持って努力していることがある (85.2) | 自分に似合う色が何色か、よく分かっている (79.6) |
| | 服装によって自分の魅力を高めるようにしている (90.7) | いろいろな分野に興味を持っている (83.3) | 一度に使う色数は控えめにしている (75.9) |
| | 友人とファッションの話をよくする (90.7) | 趣味やサークル活動など打ち込めるものがある (75.9) | 衣服の色そのものより、組み合わせの配色を重視している (75.9) |
| | 服を着て自分がどのように見えるか気になる (88.9) | 毎日が楽しく過ごせている (74.1) | 色に関する情報をテレビや雑誌などから取り入れている (72.2) |
| 流行を取り入れるようにしている (87.0) | 流行に敏感である (70.4) | 家具やカーテンなど、インテリアの配色にも気を配る (70.4) | |
| ファッションの情報をよく取り入れている (87.0) | 悩みや心配事を抱えている (70.4) | 人とは違う奇抜な色遣いをしていない (81.5) | |
| 自分の生活に満足している (70.4) | 自分の生活に満足している (70.4) | | |
| タイプ2 60人 (26.7%) | 服を着ることは楽しい (100.0) | 今、購入したいものがある (98.3) | 衣服の色にこだわるほうである (95.0) |
| | 着心地の良いものを着る (96.7) | 友人や仲間など、人との付き合いは多い (83.3) | 衣服の色そのものより、組み合わせの配色を重視している (81.7) |
| | 動きやすい服装を好む (95.0) | 毎日が楽しく過ごせている (81.7) | 一度に使う色数は控えめにしている (75.9) |
| | シンプルで飽きのこないものを着る (93.3) | いろいろな分野に興味を持っている (80.0) | 着る目的や場所を考えて、色を選ぶようにしている (71.7) |
| | 服を着て自分がどのように見えるか気になる (91.7) | 身の回りのものに個性や好みを反映させている (71.7) | バッグや履物・靴の色にも気を配る (71.7) |
| | 友人とファッションの話をよくする (91.7) | 悩みや心配事を抱えている (71.7) | 人とは違う奇抜な色遣いをしていない (96.7) |
| | 時間・場所・目的に合った服装を心掛けている (90.0) | 学業に精を出していない (76.7) | どんな色も抵抗なく着るほうではない (80.0) |
| | 年齢にふさわしい服装を心掛けている (86.7) | テレビや新聞でニュースをよく見聞きしない (63.3) | 服の色によって気分が左右されない (76.7) |
| | 自分はおしゃれを楽しんでいるほうである (86.7) | しきたりや慣習を気にするほうではない (63.3) | 無彩色(黒・白・灰)だけで統一した服装をすることはしない (76.7) |
| | 衣服の購入にお金をかけるほうである (75.0) | | 色の好みは変わらない (75.0) |
| | 個性的なものを着るほうではない (93.3) | | |
| | 様々なタイプのファッションに積極的に挑戦するほうではない (91.7) | | |
| 体の線がはっきり出るタイトな服装をすることが好きではない (88.3) | | | |
| タイプ3 40人 (17.8%) | 服を着ることは楽しい (100.0) | 今、購入したいものがある (97.5) | 着る目的や場所を考えて、色を選ぶようにしている (90.0) |
| | 服を着て自分がどのように見えるか気になる (100.0) | 身の回りのものに個性や好みを反映させている (90.0) | 衣服の色にこだわるほうである (85.0) |
| | 着心地の良いものを着る (97.5) | いろいろな分野に興味を持っている (80.0) | 衣服の色そのものより、組み合わせの配色を重視している (82.5) |
| | 動きやすい服装を好む (95.0) | 趣味やサークル活動など打ち込めるものがある (80.0) | 一度に使う色数は控えめにしている (80.0) |
| | 丈夫で長く利用できるものを着る (95.0) | 目標を持って努力していることがある (80.0) | 自分らしさの表現できる色遣いを心掛けている (77.5) |
| | 時間・場所・目的に合った服装を心掛けている (95.0) | 毎日が楽しく過ごせている (77.5) | 人とは違う奇抜な色遣いをしていない (90.0) |
| | シンプルで飽きのこないものを着る (92.5) | 休日も活動的に過ごす (72.5) | 流行の色は取り入れていない (72.5) |
| | 服装から人を判断することがある (90.0) | 友人や仲間など、人との付き合いは多い (72.5) | 無彩色(黒・白・灰)だけで統一した服装をすることはしない (72.5) |
| | 自分らしく自己表現できるものを着るほうである (82.5) | ゆったり休養できる時間がない (72.5) | |
| | 服装によって自分の魅力を高めるようにしている (82.5) | 流行に敏感ではない (72.5) | |
| | 体の線がはっきり出るタイトな服装をすることが好きではない (95.0) | | |
| 様々なタイプのファッションに積極的に挑戦するほうではない (82.5) | | | |
| 友人とファッションの話をしない (80.0) | | | |
| いつも(男・女)らしい服装を心掛けていない (77.5) | | | |
| タイプ4 71人 (31.6%) | 動きやすい服装を好む (95.8) | 今、購入したいものがある (93.0) | 一度に使う色数は控えめにしている (76.1) |
| | 着心地の良いものを着る (95.8) | 目標を持って努力していることがある (73.2) | 衣服の色にこだわるほうである (70.4) |
| | シンプルで飽きのこないものを着る (93.0) | 毎日が楽しく過ごせている (71.8) | 人とは違う色遣いをしていない (97.2) |
| | 丈夫で長く利用できるものを着る (91.5) | 流行に敏感ではない (95.8) | 色に関する情報をテレビや雑誌などから取り入れている (88.7) |
| | 服を着ることは楽しい (88.7) | しきたりや慣習を気にするほうではない (63.4) | 流行の色は取り入れていない (83.1) |
| | 服を着て自分がどのように見えるか気になる (84.5) | | 服の色によって気分が左右されない (81.7) |
| | 体の線がはっきり出るタイトな服装をすることが好きではない (98.6) | | どんな色も抵抗なく着るほうではない (78.9) |
| | 服装によって自分の魅力を高めるようにしていない (98.6) | | 色の好みは変わらない (74.6) |
| | 様々なタイプのファッションに積極的に挑戦するほうではない (95.8) | | 家具やカーテンなど、インテリアの配色に気を配らない (74.6) |
| | 個性的なものを着るほうではない (93.0) | | 自分らしさの表現できる色遣いを心掛けていない (71.8) |
| | 自分はおしゃれを楽しんでいるほうではない (93.0) | | |
| | ファッションの情報を取り入れていない (93.0) | | |
| | いつも(男・女)らしい服装を心掛けていない (87.3) | | |
| 友人とファッションの話をしない (85.9) | | | |
| 流行を取り入れるようにしていない (83.1) | | | |
| 衣服の購入にお金をかけるほうではない (78.9) | | | |

2) 女子の類型化・タイプ別特徴

タイプ1は、ファッション性が高く、自己表現や演出、T・P・O、機能性、流行、情報、身体
の欠点カバーなど多方面に気を配り、積極的におしゃれを楽しんでいる。人付き合いは多く、
行動力があり、個性や好みを大切にしながら意欲的に生活しており、他のタイプより満足度が
高い。

色彩意識は、衣服の色へのこだわりは高く、奇抜な色遣いはしないが、自分らしさを大切に
し、T・P・O、情報、流行も考慮しながら、バッグや履物の色、インテリアの配色などにも気を
配り、多方面で色を楽しんでいるタイプである。

タイプ2は、着心地が良く、シンプルで飽きがこない、丈夫で長く利用できるなどの機能
性、実用性、T・P・Oや年齢のふさわしさなどの社会性を重視しており、奇抜であったり、体
の線を強調する服装を避け、自分らしさよりも周囲を気にしながら、無難なおしゃれを楽しん
でいる。いろいろな分野に興味はあるが、社会規範や社会情勢をあまり気にせず、学業に精を
出していないが、人付き合いは多く、毎日を楽しく過ごせていると感じている。

色彩意識は、衣服の色へのこだわりが強く、無彩色で統一することは少ないが一度に使う色
数を控え、奇抜な色遣いは避けて、T・P・Oを考慮しながら、バッグや履物の色、組み合わせ
の配色などに気を配り、無難でシンプルな色遣いを好むタイプである。

タイプ3は、機能性、実用性、社会性を重視しており、最も他人意識が強く、流行や情報を
あまり取り入れず、性差にこだわらず、体の線を強調する服装を好まず、自分らしい服装をし
ようとしている。流行には敏感でないが、いろいろな分野に興味を持ち、毎日忙しく活動的で
楽しく生活している。

色彩意識は、流行色はあまり取り入れず、T・P・O、組み合わせの配色などに気を配り、奇抜
ではないが、自分らしさを表現できる色遣いを心掛けているタイプである。

タイプ4は、機能性や実用性は考慮するが、ファッション性は気にしておらず、おしゃれに
はあまり関心がない。他のタイプに比べて、活動的でなく、社会や身の回りの物事への関心も
低めだが、毎日楽しく過ごせていると感じている。

色彩意識は、T・P・Oや一度に使う色数はある程度考慮するが、流行、情報、自己表現、イ
ンテリアの配色、素材との調和、バッグや履物の色などにあまり気を配らず、他のタイプに比
べて衣服の色に対するこだわりや配慮が少なく、色を楽しもうとする意識が低いタイプであ
る。

各タイプの特徴を色彩・着装・生活面から、次のようにまとめることができる。

タイプ1は、全体的に意識が高く、自分らしさを大切にしながら多方面に気を配り、服装・
生活・色彩のいずれにおいても積極的に楽しんでいるタイプである。

タイプ2は、社会性を考慮したおしゃれをするが、生活活動はやや消極的で、服装・色彩と
もに無難さやシンプル性を好むタイプである。

タイプ3は、機能性、実用性、社会性を重視し、活動的で、服装・色彩ともに自分らしさを
求めているタイプである。

タイプ4は、機能性・実用性・シンプル性は重視するが、ファッション性が低く、あまり活
動的なほうではなく、服装・色彩ともに楽しもうとする意識が低いタイプである。

3) タイプ別構成状況

タイプ別人数をみると、男子のタイプ1に30.2%が所属し、タイプ2は28.9%、タイプ3は

15.6%，タイプ4は25.3%である。女子については，タイプ1は24.0%，タイプ2は26.7%，タイプ3は17.8%，タイプ4は31.6%である。

男子は，全体的に生活意識は高く，服装と色彩面においては意識の高い者と低い者の差が明確に表れた。女子は，全体的に服装と色彩面における意識が高く，関心の度合いに差はあるものの男子ほど明確には表れなかった。

男女間では，服装・生活・色彩のいずれにおいても積極的に楽しんでいるタイプ，あまり活動的ではなく，服装・色彩に対する関心も低いタイプが男女に共通している。無難な服装をする者は，色遣いも無難にまとめる傾向が男女ともにみられるが，女子はおしゃれ意識が高く，男子は低い。また，服装面で性差や流行にあまりこだわらず，自己表現に積極的なタイプは，色彩面でも同様に自分らしさを追求している。

IV 要約・結論

若者の色彩意識と着装・生活に関する意識を明らかにし，色彩意識と着装行動との関わりを探るため，大学生男女450人を対象に調査を行った。結果は次の通りである。

1. 衣服購入時に重視するのは，上衣では値段，デザイン，サイズ・寸法，模様・柄，色彩の順である。下衣では男女ともに，実用性，機能性をより重視し，体との適合性を考慮する意識が強い。色彩重視度は下衣より上衣において高い。
2. 衣服着用時の上衣の色選択は，男女ともに好きな色，似合う色，組み合わせ，自分らしさを表現できる色を重視し，色で身体欠点をカバーする意識は低い。下衣着用時は上衣に比べ実用性，機能性を重視した慎重な色選びをしている。女子は下半身体型の欠点を色でカバーする意識が強い。
3. 色彩意識は全体的に，服色にこだわり，統一性，シンプル性を考慮し，奇抜な色遣いを避けて，無難な色の遣い方をしている。バッグや靴・履物などを含めた全身のコーディネートに気を配り，社会性を考慮したり，組み合わせの配色に気を配るなど調和を大切にしている。ハンカチの色のような見えないところにまで気を配っていない。女子は男子より色彩意識が高く，色遣いの配慮が多方面にわたっている。

因子分析結果，男子は「色の活用性とこだわり」「統一性・限定性」「多彩性・社会適応性」「色彩感度・被影響性」「抵抗性」の5因子，女子は「配慮性」「積極性」「統一性」「色の活用性とこだわり」「自己表現」の5因子が抽出された。

4. 1990年の調査結果との比較からみると，次の変化が認められる。
 - 1) 男子はファッションを意識する傾向が高まり，おしゃれに関心を持つ者が増え，女子は身体との適合性や快適性，実用性を考慮する者が多くなっている。衣服購入時の色彩の重視順位は変わらない。
 - 2) 服装による自己表現や自己演出の関心，流行色を取り入れる意識が高まり，多様な色に興味を持って，それを取り入れようとする意識が強くなっている。服色により季節感を表現する意識は低下し，シーズンレスの傾向がある。女子は色による身体欠点カバー性意識が高くなっている。
 - 3) 男子の色に対するこだわりやおしゃれ意識が高くなり，色彩意識の男女差がわずかではあるが近づいてきている。男女とも自分らしさや個性を表現する意識が高くなり，意識的

に色を取り入れることによって、色の持つイメージや周りに及ぼす影響などを効果的に利用する意識が高まり、色に対するこだわりや意識が多様化している。

5. 着衣意識は、機能性、実用性を重視し、シンプル性を好み、服を着ることを楽しんでいる者が多く、個性的で奇抜な服装をする者は少ない。男子の方が服装による社会的な性役割をより強く意識しており、体の線を出すことに抵抗が少ない。女子は衣服と身体の関係に気を配り、社会性をより考慮し、ファッション情報を取り入れ、自分の魅力を高め、服装による表現性への関心が高い。
6. 服色にこだわる者は、あらゆる色遣いへの関心・配慮、色による自己表現、色に関する情報、素材との調和、流行色、似合う色の把握意識が強く、ファッションや流行情報にも関心が強く、着衣を楽しんでいる。
7. 着衣楽しさを意識している者は、バッグや履物の色、色に関する情報、色へのこだわり、流行色、似合う色の把握、組み合わせの配色、素材との調和、色による自己表現、多彩性、社会性、インテリアの配色などの色彩意識が強い。
8. 体型に満足している者はどんな色も抵抗なく着るなど、着用色の多彩性が高い。
9. 服色へのこだわりが強い者ほど、着たい色の服や欲しい色の持ち物入手するために努力している。紫系色のような扱いが難しいとされがちな色も前向きに活用している。
10. 自分で製作した衣服を着ている者は、色を取り入れることに積極的で、衣服以外の色にも気を配り、細かいところまで配慮している。着衣意識も高く、ファッション動向を意識しつつ、服装による表現行動に積極的で、おしゃれを楽しんでいる。
11. 数量化Ⅲ、クラスター分析により、色彩・着衣・生活意識の関連をみると、男女とも4タイプに分類された。男子は、服装・色彩ともにあまり関心がなく、生活面でもあまり意欲的・活動的でないタイプ、機能性、実用性、社会性を重視し、生活面では活動的なほうだがおしゃれには消極的で、服装・色彩ともに無難さを好むタイプ、社会性は気にせず、服装・色彩ともに自分らしさや個性の表現に積極的で独自に追求していくタイプ、活動的で、他人意識が強く、奇抜さはないが、服装・色彩ともに多方面で積極的に気を配りながら楽しんでいるタイプである。

女子は、自分らしさを大切にしながら多方面に気を配り、服装・色彩・生活のいずれにおいても積極的に楽しんでいるタイプ、社会性を考慮したおしゃれをするが、生活活動はやや消極的で、服装・色彩ともに無難さやシンプル性を好むタイプ、機能性、実用性、社会性を重視し、活動的で、服装・色彩ともに自分らしさを追求しているタイプ、機能性、実用性、シンプル性は重視するがファッション性が低く、あまり活動的なほうではなく、服装・色彩ともに楽しもうとする意識が低いタイプである。

12. 色彩・着衣意識は全体的に女子の方が高い。男子は意識の高低に差があり、具体的内容と色彩・着衣意識の関わり、色彩・服装・生活の関連にその差が明確に表れた。

以上のように、若者は、衣服の色にこだわり、着衣を楽しんでいる者が多く、おしゃれ意識がさらに高まり、色彩意識や着衣意識は多様化してきている。

こうした中で、色彩意識が高く、服装面で積極的に楽しんでいる者は、生活も活動的であり、色彩への関心が低い者は、服装・生活面ともに意識が低い。性差や流行にこだわらず、服装に自分らしさを表現する者は、色遣いにも自己表現性を強く意識しており、無難な服装をする者は、色遣いも無難にまとめる傾向があるなど、色彩に関する意識と着衣行動や生活行動の

関連性が具体的に明らかとなった。

衣服や身の回りの色彩に関心を持って、色遣いにこだわる者は、服装や生活も自分なりにこだわり、楽しんでおり、色彩は心や身体、環境などに、様々な効果や影響をもたらし、生活をより楽しく充実させ、精神的なゆとりや潤いも与えてくれる。色は生活そのものを大きく変える力を持っている。身の回りにおいて積極的に色を楽しみ、活用することは、生活の質を高める、有効な手段の一つとなる。

さらに、衣服を作って着ている者は、色彩意識や着装意識が高く、自己表現・自己演出、着装を楽しむ表現行動が顕著で、自分の個性や好みを上手に活かして、鋭い感性で一步先に行く楽しみ方、生き方をしていることが明らかとなった。

家庭科教育の被服領域では、衣服の着用と衣服の製作に関する内容が重要な指導内容となっているが、今回の研究を通して、色彩・着装意識を主体的に高める衣生活教育により、生活の充実をめざし、生活の質を高めることが可能であることを確認することができた。

終わりに、調査にご協力下さいました皆様と先行的研究をされた玉井千鶴さんに深く感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 相馬一郎 読売科学選書49 暮らしの中の色彩心理 読売新聞社 42 (1992)
- 2) 財団法人日本色彩研究所 デザインの色彩 日本色研事業研究所 2 (1990)
- 3) 増田美子 古代服飾の研究－縄文から奈良時代－ 源流社 103 (1995)
- 4) 長崎盛輝 色・彩飾の日本史 淡交社 124～131 (1990)
- 5) 元井能 日本被服文化史 光生館 32～34 (1969)
- 6) 前掲書 4) 9
- 7) 市川秀子 ファッションと流行色－その役割と仕組み 衣生活 Vol.38 No.6 (1995)
- 8) 出井文太 ライフスタイルの変化に現れる流行色 化繊月報553 27～34 (1994)
- 9) JAFCA のホームページ <http://www.jafca.org/info/organ.htm>
- 10) 鮎田崎子 宮崎陽子 若者の着装意識と生活意識の関連－男子・女子大学生の場合－愛媛大学教育学部紀要 第I部教育科学 第46巻 第2号 149～167 (2000)
- 11) 鮎田崎子 岡田奈美 高齢者の着装意識と生活意識の関連－大学卒業生(60歳～70歳)の場合及び大学生との比較を通して－愛媛大学教育学部紀要 第I部教育科学 第46巻 第2号 169～191 (2000)
- 12) 玉井千鶴 装いと色彩に関する研究 愛媛大学教育学部卒業論文 (1990) 松山市在住の大学生447名(男子225名, 女子222名)によるものである。同内容の項目を比較している。
- 13) 鮎田崎子 石川祥代 大学生男女の身体意識と着装行動に関する研究 愛媛大学教育学部紀要 第I部教育科学 第47号 第1号 167～184 (2000)